

■論文題目	地域のまちづくりにおける活動と人の成長の相互作用―「紫波歴史研究会（紫波町）」の活動を通して―		
■氏名(学籍番号)	門前カンナ(0412023310)		
■指導教員	倉原宗孝	■所属コース	地域社会・環境コース
■キーワード	まちづくり	人	相互作用

1. 研究の背景と目的

「まちづくりは人づくり」と言われるように、地域社会の発展にはその活動に関わる人々の考え方や行動が重要な要因となる。まちづくり活動はイベント開催などにとどまらず、地域住民が主体的に関与し、地域の価値を見つけ出し、作り出し、発信するために協働することが重要である。そして活動の成長や広がりと同時に人々も成長、変化していく。これはまちづくり活動の本質であると言える。まちづくり活動において、人が豊かになるということは、そのまま活動自体も豊かになることを意味するのである。ここで調査対象として設定する「人」は、活動団体の要となる中心人物である。中心人物は団体の文化やメンバーのモチベーションに大きな影響を及ぼし、その考え方や行動がどのように団体の文化を形成し、メンバーのやる気を引き出しているのかを調査することは、団体の持続可能性に直結する。中心人物の影響力が大きいほど、その思考や行動が団体全体に与える影響も大きくなる。

2. 紫波歴史研究会についての概要と調査対象の位置づけ

紫波歴史研究会は平成 29 年 11 月に発足され、紫波町の歴史の調査研究・普及啓発・情報発信及び継承を目的として活動している団体である。調査対象者を研究会代表の佐藤観悦氏に設定した理由は、佐藤氏が一目置かれるような行動力を発揮し、紫波歴史研究会の活動に尽力しているためである。佐藤氏は紫波歴史研究会の活動として多くの歴史的資料の保存やイベントの企画運営を行い、その活動がエイジレス・ライフ社会参加章という荣誉に認められた人物である。この賞は、長寿社会における高齢者の社会参加活動の模範であることの表彰である。また、井手（2024）は「まちづくり活動のリーダーの特性は【誠実さ】【知性】【決断力】【経験値】【エンターテインメント性】で構成されている。」¹と指摘している。これらの研究会の佐藤氏を表しているのではないかと昨年の歴史かるた大会に著者は考えたためである。そして、佐藤氏は歴史研究分野において地域全体を巻き込む実行力を持ち、地域活動の成功要因を探るうえで重要な調査対象であると考えた。

3. 1 佐藤観悦氏のプロフィールと参画経緯

紫波歴史研究会の代表理事を務める佐藤観悦氏は、地域に根ざした活動を通じて紫波町の歴史的資源の調査と伝承に尽力してきた人物である。佐藤氏は紫波町南日詰出身で、4 人兄弟の長男である。嶋の堂観音の存続をしながら、巡礼者に地域の歴史や観音像の歴史を伝える中で、自身もより地域の歴史について知らなければならなかったことやこれを後世に語り継がなければならぬということを考え、甥と紫波五郎沼研究会を発足させた。

3. 2 人生史から見るリーダーシップの形成

佐藤氏の人生史から、生涯にわたって地域活動におけるリーダーシップの多様な形が分かる。この調査の目的は、佐藤観悦氏の誕生から現在に至るまでの人生史から特にまちづくり活動やリーダーシップに影響を与えた出来事や経験を明らかにすることである。具体的には、彼の価値観や行動力がどのように形成され、地域活動を推進する原動力となったのかを探った。

幼少期から仲間づくり意識やリーダーシップを培った。中学時代にはモノづくりに熱中し、友達のために作った電気製品の制作経験がのちの IT 技術への関心につながる。また、友人とは生涯の絆を築き、現在の研究会活動も支えてくれている。大学では電気工学の勉強をしつつ、教員免許の取得や家庭教師のアルバイト

の経験から教育の楽しさを学ぶ。これらの仲間づくりや最新技術・ITの知識構築、教育経験が佐藤氏の研究会での活動やリーダーシップ形成に影響を与える。

1966年シチズン岩手に技術職として勤務し、カメラ露出計の設計開発や作業移管を担当した。この設計書や手順書の作成を通じて培ったスキルは紫波歴史研究会での調査や資料作成にも活かされている。さらに1979年父の跡を継ぎ別当となり、地域の歴史を守る使命感から歴史学習と継承の意識が芽生えた。また技術者としての経験から生まれたモノづくりへの情熱や開拓者精神は研究会の調査研究と伝承発信の分野で活かされている。

2005年からはずっと守ってきた観音様の歴史を巡礼者に伝える活動をしている中で、後世にもこれを語り継がなければいけないと意識するようになった。その翌年にはがんを患い、医師に命が危ないということを伝えられるが、中学時代の医者になった友人に良い先生の紹介や診断をしてもらい助けられた。またそこで残る人生で何をやらなければならないのか、人生観が変化する機会になった。73歳の時には紫波町の地域づくりのスタートアップ助成金を受けて、ホームページ「紫波歴史五郎沼ネット」を制作。

3. 3 佐藤氏へのインタビュー調査

人生史のインタビュー調査から、佐藤氏は前職での経験からIT分野に強いことがわかった。また短大時代の家庭教師などの経験から若い世代と意見交流する大切さを学び、研究会では県内の大学生や高校生と協働しながら活動している。さらに詳しく佐藤氏について知るためにパーソナルやリーダー性についてのインタビュー調査を行った。大切にしている言葉や心がけから、佐藤氏の考え方の軸には「為せば成る、為さねば成らぬ、何事も成らぬは人の為さぬなりけり」という上杉鷹山の言葉があることがわかった。また当たり前の日常への感謝を忘れないことやチャレンジ精神が考え方の根底にあることが示された。

4. 個人の考え方やスキルが地域活動に与えた影響の考察

佐藤観悦氏の個人の考え方やスキルは、まちづくり活動にさまざまな影響を与えた。まず、佐藤氏の考え方として重要なのは「成せば成る、成さねば成らぬ何事も、成らぬは人の成さぬなりけり」という座右の銘に表れる、行動力を重視する姿勢である。これは彼がまちづくり活動に取り組む際に常に示してきたもので、何事も行動を起こさなければ結果は生まれないという信念が、研究会の新たな分野に向けた活動の原動力となった。また、シチズン岩手に勤務していた時期、佐藤氏は技術職として多くの業務を担当し、会社の部下を牽引して技術を教えながら勤務した。そこで研究会の人をまとめる能力を培っていた。また、カメラや露出計の設計開発、作業移管などを通じて、問題解決能力や計画性、そして効果的なチーム作りの重要性を学んだことは、紫波歴史研究会の活動に還元され、非常に役立っている。さらに、佐藤氏の考え方の中で「人は成長する」といった考えの基盤があり、これが地域活動における彼のリーダーシップに反映されている。例えば、シチズン岩手の業務において、技術の習得だけでなく、従業員同士の連携や協力を促進する役割を担ったことが、地域活動における人材育成に繋がった。また短大時代、教職免許取得課程で学んだことが企業での指導にも生かされ、それが研究会活動においても県立大学や紫波総合高校と積極的につながりを持ち、若い世代との意見交換の場を設けるという行動につながった。佐藤氏の漸進的な考え方はこういった経験からも来るのではないだろうか。

参考文献

1 井手 拓郎 「観光地域づくりにおけるリーダーのリーダーシップ」 <
https://www.jstage.jst.go.jp/article/journalcpj/59/2/59_261/_pdf/-char/ja> ,2024 年 10 月,261 頁—274 頁,266 頁